



加古だより

加古小学校通信
令和6年10月号
No. (381号)

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

校長 野邊 久美

令和6年4月18日(木)に、全国の小学区6年生と中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果をお知らせします。

なお、序列化や過度な競争につながるような数値を示してのお知らせではないことをご理解くださいますようお願いいたします。

本校児童は、比較的安定した力をつけてきており、学力の定着が進んでいます。今回の結果を分析し、各教科の授業改善に取り組むと共に、児童一人一人が自分の現状を確認しながら課題を見つけ、主体的に学びに向かう力をと学習における自己調整力の育成を目指します。

国語 ○成果があった点 ●課題がある点

【話すこと・聞くこと】

日常生活の中から話題を決め、必要な情報を集めて質問しながら聞き、自分の考えを伝え合う学習は、国語科のみならず、他教科等においても積極的に行っています。その成果として、材料を分類したり関係づけたりしながら、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力はついてきています。今後は、自分の考えが相手により伝わるような表現を考え、工夫していけるよう工夫していきます。

○目的や意図に応じ、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。

●自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

【書くこと】

集めた資料の中から、目的に応じた情報を取り出し、事実と感想を分けながら書くことがはできていますが、書かれたメモや考えから、書き方の工夫を的確にと捉えることには課題があります。また、一定の分量内に自分の考えをまとめて書くことにも苦手意識が見られたので、字数制限のある中での書く機会を増やしていきます。

○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書きあらわし方を工夫することができる。

●伝えたいことを明確にする。

【読むこと】

登場人物の心情が描かれている場面を読み取り、言葉の意味を正しく理解したり、心に残ったこととその理由を書いたりすることはできています。しかし、登場人物の気持ちや考え、物語の構成、表現の効果などを区別して読み取ることには課題があります。今後は、読み取る際には何に注目して意見が書かれているのかを意識するよう指導していきます。

○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえることができる。

○物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

●人物像を具体的に想像することができる。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

授業や日々の家庭学習で漢字の反復練習を行い、わからない言葉については、辞典を使って意味を調べたり、短文作りをしたりする学習を取り入れているため、漢字を正しく使える児童が増えています。長い文章になると、主語と述語の関係を正しく捉えることが難しいようなので、今後は、特に一文が長い文章においては、主語と述語を意識して確認しながら読み取りができるよう指導していきます。

○話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。

●主語と述語の関係を捉えることができる。

算数 ○成果があった点 ●課題がある点

【数と計算】

計算ドリルやワークを使った反復練習の成果として、基礎的な計算や数に関する知識は定着していますが、問題場面の数量関係を正しく捉え、それを式に表すことにおいては課題が見られます。問題場面の数量関係を正しく捉えるためには図に表すことが効果的であるため、児童自身が図で表すことの有用性を感じ、正しく図に表す技術が身につくような授業づくりに取り組んでいきます。

○整数・小数の四則計算ができる。

●問題場面の数量関係を正しく捉え、式に表すことができる。

●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。

【図形】

円や円柱、直方体や多角柱の性質については概ね理解できています。しかし、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉える問題は他の問題と比べて正答率が極端に低くなっています。この問題においても正面から見た図に表すことができれば、球の直径と立方体の一辺が同じ長さであることを捉えやすくなるため、問題場面を正しく捉えて自分で図に表すことができるようにデジタル端末等も活用して指導していきます。

○円や円柱、直方体や多角柱などの図形の定義や性質を理解することができる。

●図形の性質を用いて、問題場面のそれぞれの図形の長さ等の関係を理解することができる。

【変化と関係】

この領域においては、全国平均と比べて正答率が大変高く、速さや比例関係の理解はよくできていると思われます。しかし、2人の歩く速さを比べてどちらが速いか理由を記述する問題には苦手意識をもっている児童が多かったです。普段の授業でも考え方を説明したり、言葉でまとめたりするなど、聞き手を意識して自分の考えを表現する機会を増やしていきます。

○速さの意味について理解している。

○比例の関係を理解し、一方の値の変化からもう一方の値を求めることができる。

●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することができる。

【データの活用】

表の中から必要なデータを取り出し落ちや重なりがないように分類整理することは非常によくできています。他の設問においても全国平均の正答率と比べても同じか少し高い値になっています。しかし、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題では正答率が下がってしまいます。説明や考え方を文章で表現することに課題があるので、考えの根拠を明確にして他者に分かりやすく説明できるように指導することで理解の定着を図ります。

○表やグラフから必要な情報を読み取ることができる。

●表やグラフから問われていることを導き出すために必要な情報を読み取り、式や文章で考え方を表現することができる。

【学校・家での様子】

本校の6年生児童は、生活習慣が安定しており、「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童の割合は極めて高いです。地域の方々に見守られて安心できる環境と安定した家庭生活があるからこそ、自分なりの将来への展望を持つと共に社会貢献意識が高くウェルビーイングの状態が維持できていることと推察できます。

また、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と全員が考えており、「人が困っているときは、進んで助けている」の割合も9割を超えています。いじめは許さないという強い気持ちと助け合いの心が育っていると共に、自分の持つ力を社会や人のために役立てたいという自己有用感を持っていることが伺えます。「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」と答えた児童の割合も非常に高いです。それぞれの児童が自分のよいところを認め、よさを発揮できる機会を設定することで、さらに自己肯定感・自己有用感を高め、誰にとっても学校が安心して楽しく過ごせる場所となるような取り組みを進めていきます。

学習面では、「1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」については、放課後の習い事等の影響もあるかと思いますが、全国や県の平均より学習時間が少ない傾向にあります。家庭での有意義な時間の使い方等への声掛けが必要かと思われます。

ICT機器の活用については、「ICT機器を週3回以上使った」「分からないことがあったときに、すぐに調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」と回答した児童の割合が非常に多く、児童にとってPC・タブレットなどのICT機器を使うことが日常となり、文房具と同様に学習に必要なツールとなってきたことが分かります。今後もICT機器を使用する機会や時間を工夫して効果的に活用し、学びを充実させていきます。

学習への取組については「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている」等の問いに対しては、どれも全国、県平均より高い割合となっており、主体性を育てると共に自分の考えを発表する機会を多く設定したり、学習に関する自己調整力を育てたりといった本校の取組みの成果があらわれてきているように思われます。

以上のように、本校の6年生は何事にも意欲的に取り組み、友達と協力しながら安定した学校生活を送れています。今後も「確かな学力の育成」に取り組むと共に、地域と共にある学校としてのコミュニティ・スクールの取組や地域活動を通じて、加古地域の強みを活かして学校と保護者と地域が連携して児童の健全育成に取り組んでいきます。